

ハッと育

HATTO-IKU | 静かな意識革命

唯一無二を、
もったいないままにしない。

バスケットボールを通して一人ひとりの特性に気づき、育て、
チームと社会へ活かし返す導き。

西田辰巳
『ハッと育』開発者

勝利へ向かう途中で、 何を置き忘れているだろう？

勝つこと、うまくなること、強くなること。
それを目指すからこそ、置き忘れてはいけないものがあります。

- 唯一無二の特性
- 創造力と柔軟な思考
- 自分軸と判断する力
- 自己肯定感
- 成長マインド



勝つことで最高を目指しても、
人を育てる最低条件を忘れれば、
その子の可能性はコートに残される。

THE LOST OPPORTUNITY | 原点にあった感情

『もったいない』は、可能性への言葉

子どもの不足ではなく、大人の見方や導き方によって見落としているものがある。

もったいない

勝敗や『できる・できない』だけで見ると、その子にしかない特性や伸び方を見落としてしまう。

優劣で見る ——— 特性を見落とす

教え込む ——— 考える余白を奪う

答えを与える ——— 判断する経験を減らす

結果だけで評価 ——— 成長の途中を否定する

ミスも、休むことも、うまくいかなかった経験も、自分を知るための大切な情報。

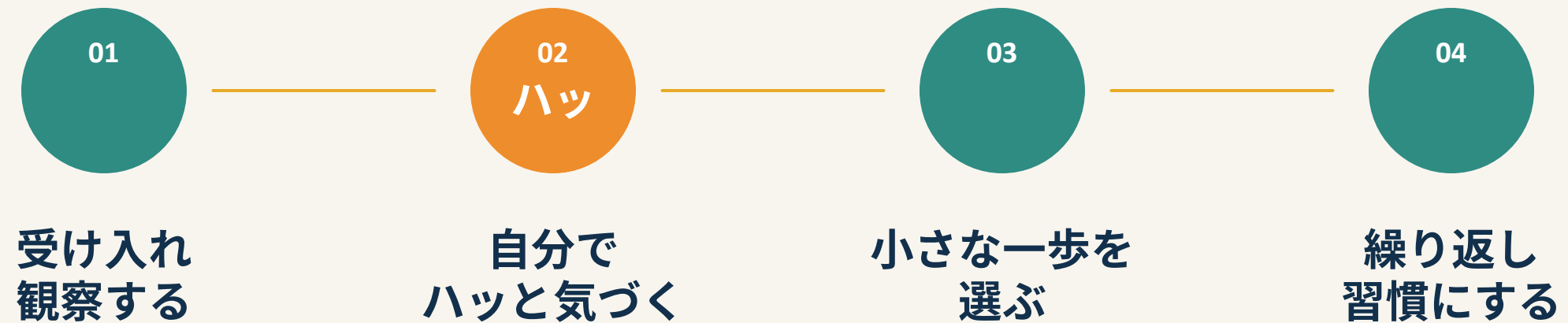
WHAT IS HATTO-IKU? | ハッと育とは

非認知能力を教えるのではなく、育つ環境をつくる

本人の気づきと小さな実践が、内面の力を少しずつ育てる。



教えられた正解ではなく、
自分で気づいた瞬間から、
行動が変わり始める。



『身につけなさい』と論じず、
好き・やりたい・できることから、本人のタイミングで育てる。

ハッと育は、非認知能力が自然に育つ体験を設計するプラットフォーム。

BASKETBALL AS A PLATFORM | 体験の舞台

バスケットボールには、内面を育てる体験がそろっている

白黒がはっきりする競技だからこそ、結果を自分を知る材料へ変える。



勝敗や技術だけで終わらせず、
自分を知り、自ら成長する経験へ。

- 挑戦する
- 競い合う
- 成功と失敗
- 仲間と協力
- 役割を担う

体験を
気づきへ

自分軸

自己肯定感

成長
マインド

三つの土台は、目標として押しつけるものではなく、日々の体験の中で育み続ける力。

THE HATTO-IKU CYCLE | 成長の循環

唯一無二は、チームと社会へ活かし返される

授かった特性を見つけ、磨き、役割へ変え、次の誰かにつないでいく。



一人ひとりの特性が、仲間・チーム・仕事・社会の価値になる。

THE MINIMUM FOUNDATION | 人を育てる最低保障

最高を目指すために、下回ってはいけない最低条件がある

勝利や強化を否定せず、その過程で人として大切な価値を見失わない。

1 IDEAL

平和

一人ひとりの唯一無二が、
互いを奪わず活かし合える状態へ

5 VALUES

尊重

成長

創造

自由

平等

9 GUIDELINES

普遍的な知恵を使い、
気づきが生まれる体験を
判断・設計・振り返る

5 VALUESは、優しい理想論ではありません。
どれだけ勝利や技術を追求しても、決して下回ってはいけない『人を育てる基準』です。

5 VALUESは指導の最低条件であり、唯一無二を育てる最高の土台。

FROM INNER GROWTH TO ACTION | 社会への展開

内面の土台は、社会に役立つ行動として現れる

能力を単独で教えるのではなく、体験の中でつながりながら育てる。



唯一無二の力を、仲間・チーム・仕事・社会へ活かし返す。

THE QUIET REVOLUTION

置き忘れてきた大切なものを、 バスケットボールの中に取り戻す

勝敗で人の価値を決めず、
勝敗を活かして、一人ひとりの唯一無二を育てる

ハッと育は、
人の見方と育て方を変える『意識の実践学』

西田辰巳 | 『ハッと育』開発者
ZEN-PORT | SHOOTING GARAGE



唯一無二を活かす社会へ
静かな意識革命